

はじめの如きものには比較的多量の沃土をもつて居るから是より沃土を製造する事が我國でも随分盛んでありますから是等のものに近い「ほんだはら」類も沃土製造の原料としては如何と考へられますけれども是は有望でなく其含量は到底工業上

## 森の幼稚園

(一)

S  
K  
生

收支のつぐのはれるものでないさうであります。是に反して歐州では此科のあるもの即我國の「ひもつのまた」に近いものからは醋酸を製すると申します。(完)

### 一、森の先生

先生が此の幼稚園を開かれてから、もう大分の歳月になります。入口の櫓の木を門に利用して、小さな標札が懸けてあるけれども、近所では幼稚園の名をいふ人はありません。森の幼稚園で通つて居ます。同様に先生の名をいふ人もありません。森の先生で通つて居ます。

如何にも通稱の示す通り、森の先生に相違ない

のです。皆さんが△△△の停車場で電車を降りて南へとつて二三丁行かれると、もう此の森の頭が見えます。以前は何の土地であつたのか、廣い廣い森と、それに連る起伏多い畑地とが、此の幼稚園の敷地なのです。此の廣い敷地の中に、日當りのよい洋風の平屋建と、藁ぶきの家が三軒あります。洋風の方が幼稚園で、藁ぶきの中で比較的大いのが先生の住宅です。先生は此の質素な家に、

奥さんと、末のお嬢さんと、忠實な僕婢等とで、極めて平和な生活をして、専心幼稚園の爲に盡して居られます。

先生は總ての場合、總ての人に、心からなつかしがるゝ方です。前に大學で教育學の講義をして居られた頃には、丁度彼のウインツブルグ大學のメランヒトン教授の様に、學識に於ても人格に於ても、多くの若い學生の崇拜の中心でありました。その有名な大先生が、郊外へ引込んで幼稚園などを始められるといふのですから、當時は社會から随分意外なことに思はれたのでした。併し先生は幼児教育を決して低い仕事とも容易い仕事とも考へて居られませんでした。従つて、御自身この幼稚園を初められることを何等奇なこととも思つて居られませんでした。さうして今では、昔大學生から敬慕せられたと同じ様に、可愛い幼児達の親しみと、なつかしみとの中心になつて

居られます。

幼児達は毎朝幼稚園へ來ると直ぐに、先生の顔を見なければ承知しません。可愛い聲で先生先生と言つて、馳けて來ては取りすがります。先生が簡単な背廣服を着て、幼児達と鬼ごつこやまゝごとをされて居る時には、此の大先生と幼児達とが、全く互に溶けあつて仕舞つて居ます。それから又風の温い午後など、先生が幼児達を連れて、近所の八幡様へでも行かれようといふ時には、先生の身邊は二重三重と幼児達に取り圍まれて、それはく大層な騒ぎです。

先生はまた、此の幼稚園の全職員の心服の中心であります。素より多勢の人数でもありませんがその一人々々が、残らず先生に敬愛の念を傾倒して居ます。單に園長、職員といった様な、形式的關係だけのものは一人もありません。皆、何かの點で先生を慕つて來た人、また先生の方でも信任

して居る人ばかりです。私はいつでも、イヴェルダンの學校に於ける、ペスタロッチと其の弟子でもあり協力者でもある職員達との關係を思ひ出すのであります。

そればかりでなく、先生は亦、此の幼稚園を中心にした附近の人々からも敬慕されて居られます。此の幼稚園が初めて出来た時は、附近の人々は其の餘り簡単な開園式に呆れた位でした。國旗が一本園庭の旗竿に掲げられた丈で何の裝飾も、目を引く趣向もなかつたのでした。さういふ風でしたから、近所でも幼稚園が出来たのかどうか、随分の間知らない人もあつた程でした。それが二年たち三年たち、今では自分の子供を通園させて居ると否とに拘はらず、近所で先生を敬慕しない人は一人もない様になりました。先生が村の爲に盡さるゝいろゝのことは後でまたお話しする積りですが、さういふ事の外に、随分小さな、つまらな

い様のことまで、森の先生々々といつては相談の中心になつて居られます。

斯うして、總てのものから敬慕され、また總てのものを親愛して居らるゝ中にも、最多く先生の頭と胸とを占領して居るものが、森の幼稚園であることは言ふ迄ありません。先生の高遠なる學殖と、崇高なる人格とが、世に最も小さい幼兒達の爲に、何の惜しげもなく傾注されて居るのです。

## 二、ガーデン主義

暖い午後。

先生といつしよに、フロックスの移植をして居ると、時々鶏小屋の方で頓狂なブエマの聲が聞えるのと、かすかに電車の響が聞える外は、何の響もありません。幼兒の歸つた後の幼稚園の、一としきりゆつたりとした静かさが、ほかゝとした日向に充ちて居ります。

「ねえ君、温室の様に無理強ひに咲かすのでもな

いし、と言つて勿論、野原の様に野生のまゝ放任して置くのでもなし、自然に生長して、自然に咲くべきものに、適當な培養を與へるのが目的でしょう。――つまり幼稚園は幼稚園なんだねえ」

いつでものことですが、幼稚園の園といふ字が先生にとつては如何にも含蓄の多い、意味の深いことなのです。幼児教育の目的なり方法なり、さういふお話を伺つて居るとうつまり幼稚園は幼稚園だねえ」といふ句が屢々出ます。それも決して口癖と名づくべきものではなくて、假りに數千萬言を以てしても、此の一語ほどに我が事業をいひあらはす語はないといふ強い心持が、其の度毎にお顔にありくと讀めるのです。

私はいつでもさう思ひます。フレーベルが幼児教育の計畫すでに熟して、たゞ適當な名稱の無いのに困つて居た時のことでした。二人の親友と、ブランケンブルグへの途すが

ら、いつもの様に、あれかこれかと名稱の選擇に苦心して居ました。丁度スタイゲルの峠路へさしかつて、ブランケンブルグの町を脚下に見て、愈々考へまどうて居た時です。急にフレーベルは立ち止まりました。今迄うなだれて居た其の目には異様の喜びが輝きました。さうして山を仰いで叫びました。

「これだ、これだ、幼稚園だ」

と。さうしたら四方の天が之れに應へて反響したと其の時の友人が後に書いて居ます。實に、私共が常に言ひ慣れ、聞き慣れて居る「幼稚園」といふ名は、こゝも潑刺たる感動を以て考へ出されたのです。それが後には段々とうすらいで、終には何の感動もなく凡化して仕舞つて居るのです。先生はつまり此の百餘年前の古い感動を、絶えず新らしく胸に湛えて居られる人だと、私はいつでもさう思ひます。

殊に私にとつては、先生の此の語が、他の人よりも一層よく分るかと思ふのです。私は斯うやつて先生と土いぢりを始めると、必ずあの時のことを思ひ出します、私が初めて此の幼稚園へ先生をお訪ねした時でした。いろいろのお話の中に、植物培養の要訣は約て言へばどういふ點にあるかといふ様な問が出ました。私は何の氣もなく、「さうですなあ、いは自然の手傳ひです」と答へました。すると先生は急に其の大きな手で私の肩を抱くやうにして、

「さうです」

と言はれました。それは只一言でしたけれども、何だか私の心全體に響く様に思はれました。暫くして、先生は其のやさしい目で、にこやかに私を見て

「吾々のして居る仕事も矢張り同じです」  
と言はれました。

私が幼稚園といふものに深い興味を有つたのは即ち此の時からのことです。私は教育學や保育法を専門に學んだのではありませんし、幼稚園問題には、もと／＼素人に過ぎません。しかし、斯うやつて親しく此の幼稚園へ出入して、先生に接して居りますと、少しはいろいろのことが分つて來るやうに思はれます。それも一々の小さいことは兎も角、幼稚園は幼稚園だといふ先生の根本の意味だけは可なり理解し得るやうに思ふのです。先生も亦何時でしたか、

「吾輩のガーデン主義は、園藝家の君に一番よく分るかも知れない」

と、笑ひながら言はれたことがありました。

此の先生といつしよに園庭に降りて斯うやつて働いて居ると、私の園藝も生きて來る様な氣がします。